

Golf Course Management & Maintenance Magazine

令和4年11月1日発行  
(毎月1回1日)  
第55巻第11号

# ゴルフ場セミナー

11月号

休眠から目覚めたゴルファーたち

Part1 現場の対応と現状

Part2 再開ゴルファーの本音

冬の閑散期を克服する営業戦略





# 「気象の変化に対応するため 透水性の向上に注力」



小畑 祐介  
コース管理部部長  
(45歳)

コース管理スタッフの構成  
15名(社員/6名、パート6名、アルバイト/3名)  
平均年齢 55歳



月別の平均最高気温、平均最低気温(℃)と降雨量(mm)

2021	1	6.1	-3.9	60
	2	9.6	-2.1	45
	3	14.1	1.4	94
	4	19.0	4.7	153
	5	22.0	12.2	204
	6	27.1	16.2	107
	7	31.0	18.0	279
	8	30.4	21.9	429
	9	27.5	18.7	161
	10	22.7	11.0	52
	11	15.8	3.0	57
	12	9.1	-0.6	81
年間				1722

近年、夏季は猛暑が当たり前になり、大雨やゲリラ豪雨が増えている。千刈カンツリー倶楽部の小畑祐介グリーンキーパーは、水管理を容易にするため透水性のよいグリーンを作ることに注力。また、よいスコアで快適にプレーを楽しめるように、プレーアビリティとコースの美観向上も大事にしている。

「コース管理の仕事に就いたのはどのような経緯で？」

「農業高校の出身で、野菜を栽培した

## 使用芝草

- グリーン1G ベンクロス(007)
- ティーイングエリア ティフトン、コウライ
- フェアウェイ ティフトン、一部コウライ
- ラフ ティフトン、ノシバ

「確かに化成肥料のほうが反応が早いし、有機肥料は気温に左右されるため効果の出方にムラがありますが、微生物の活性を促して地力を上げるため、すなわち土作りを目的に、2年前から有機の液肥中心に肥培管理をしています。微生物の働きによってサッチが分解されれば、透水性もよくなります。年3〜4回、サンプルをとって根の状態や土壌成分を分析しており、その結果を元に肥料やアミノ酸などの栄養素を入れていきます」

「更新作業や肥培管理のほかに、グリーンをよくするために実施していることはありますか？」

「近年は、気象の変化が激しく芝の生育環境が変わってきているので、今後、ベンクロスではしんどくなるの

「よいスコアで気持ちよくプレーできるようにとのことですが、グリーンはどのような状態に？」

「葉を細くし、スムーズに転がるグリーンをお客様に提供しようという心がけています。昨今は速いグリーンが求められる傾向がありますが、当コースのグリーンは傾斜がきついで、あまり難しくならないように9フィートを目安にしています。でも、グリーンでの管理でいちばん目指しているのは、ムレを気にせず夏季もしっかり散水できる、透水性のよいグリーンを作ることです。近年は局地的豪雨や短時間強雨が多発しているため、その対策でもあります。土壌に水を入れるのは簡単ですが、抜くことはできませんから」

## 更新作業と微生物の働きで グリーンのサッチを除去

「透水性をよくするには、更新作業が重要になりますね。」

「3月に約12mm、9月は約8mmでコアリングを、6月と7月に8〜10mmの十字ラインでホーキングをするほか、2年前から4月にバーチカッターを借りて土壌中のサッチを除去しています。その効果は大きく、以前より

## 千刈カンツリー倶楽部

(兵庫県)  
COURSE DATA  
所在地 三田市山田大道ヶ平 605  
開場 1965年4月17日  
コース規模 18H 6561Y P72  
コース設計 JE. クレーン  
管理総面積 約82.5万㎡  
土壌 真砂土  
水源 ダム  
標高 約220m  
主要樹木 マツ、スギ、ケヤキほか

グリーンは透水性は改善されました。また、昨年からの縦型の浸透剤を梅雨時季から使用しており、さらに透水性が向上したと感じています」

「では、加湿を気にすることなく散水することが可能に？」

「以前は芝のムレを気にしてあまり散水できず、芝が焼けてしまったことがありましたが、今は手散水でしっかりと撒いています」

「手散水ですか？」

「スプリンクラーが古くて散水量のバラツキが大きいので、夜間などに必要最少量を散水し、水遣りは手散水を基本にしています」

「散水作業の手間がかかるのでは？」

「当たり前ですが、コースを管理するにあたって、芝がどういふ状態なのか常に観察することを大切にしています。スタッフにも芝に興味を持つ

て観察してほしいので、日頃のグリーンの管理は5人で分担し、それぞれ同じホルの刈込や水遣りなどを担当してもらっています。散水は私もやりますし、どこが加湿になりやすく、どこが乾燥しやすくなるのか各人が分かっているので、散水の手間は問題ではありません」

「グリーンについて、葉を細くスムーズに転がる状態にするためにどうしていますか？」

「基本は刈込と目砂で、3月から11月中旬まで、夏季を除いて週1回、最低でも2週間に1回薄目砂しており、夏季も曇りの日や翌日が雨の日などタイミングをみて実施するようにしています。また、以前はコアリングの際に回復を促すために粒肥を入れていましたが、一気に葉が広がることがあったので、2年前から粒肥の量を減らすか、秋はできるだけ入れないようにして、芝の状態を見ながら有機の液肥で管理しています」

「有機肥料ですか？ 化成肥料のほうが、コアリング後の回復が早いのでは？」



「サッチカッター」でグリーンのサッチを掻き出して除去。透水性が向上した



ではないかと思ひ、昨年から5年計画で007をインターシードして品種転換を図っています」

——インターシードはどのように？

「9月のコアリングの後に、乗用のマレード（レンタル）で切れ込みを入れながら、m当たり5g播種しています」

——ベースの芝の状態がよいとなかなか転換しないと聞きますが……

「確かに、発芽は確認できましたが、2週間したらどれが007なのか分からなくなりました。でも、今夏はグリーンが落ちることなく、よい状態を保てたので、インターシードの効果もあるのではないかと思っています。5年間しっかりインターシードを行い、007に転換することが今後の課題です」



グリーンに切れ込みを入れて確実に種を落とすマレードをレンタルし、インターシードを行う

## ウィンターオーバーシードでフェアウェイを常緑に

——フェアウェイはウィンターオーバーシード（WOS）をしているそうですね。

「フェアウェイはティフトンですが、春の立ち上がりが遅く、春先にスプリングデッドスポットが多発し落ち込むことがあるため、その対策として1998年からWOSを始めたところ聞きました。ベレニアルグラスをオーバーシードをするため除草剤を撒けずスズメノカタビラが増えていたので、順番にアウト・インそれぞれ2ホールのWOSを2年間中止し、その間に除草剤で雑草防除を徹底しています。WOSをしない4ホールは、冬季に着色をしています」

——昨年からライグラスは品薄状態で、高騰していると聞きます。

「今年、ベレニアルグラスは従来の一・七倍に高騰していますが、常緑のコースとしてお客様に定着していますし、着色よりも緑が鮮やかでティーからコースがきれいに見えるので、今年も例年同様に作業（9月にバーチカルをかけて月末に播種）を行います。お客様には喜んでいた

だけまずし、ライグラスが水を吸うので、降雨後は着色ホールよりも排水がよいです」

——手間がかかっても、メリットは大きいそうですね。

「問題は、イノシシ用の電柵を飛び越えて鹿が侵入し、芝をかじったり糞の被害があることです。お客様に迷惑をかけないように、昨年スリーパーを購入し朝夕掃除しています」

——フェアウェイも透水性を意識しているのですか。

「暗渠排水によって水捌けがよく、排水不良箇所は冬季に工事して改善しています。目砂をしていないので、その代わりに2年前から6月にサッチ分解剤を散布しています」

——キーパーとして大事にしていることは何ですか。

「生き物が相手なので単なる作業にならないように、スタッフには芝への興味やお客様目線、目的を持って仕事をしてもらいたい。それを意識づけるために、声かけなどコミュニケーションを大切に、安全で働きやすい職場づくりを心がけています。休みの日に連絡をするのはどうかと思いましたが、LINEでグループを作り、各人がコース内の気づいた

ことを発信して情報を共有しています。情報はすこく大切で、キーパー会や研修会に参加してキーパーや業者の方々と情報交換をしたり、ベテランの先輩キーパーにいろいろ教えていただいています。それから、支配人や倶楽部役員の方々とのコミュニケーションも肝心で、コースの状態やそうなた理由、改善策などをこまめに説明して、理解していただけるように心がけています。コースをよくしたり、働きやすい職場を作ること繋がりから」

——今後取り組みたいことは？

「芝の種子や肥料など資材が高騰しているため、当面はその対策ですね。削れるものはないか、代替の資材がないか検討しています。コース管理の人員が減少するなか、毎朝グリーン刈りに5人は必要なので、効率化や将来を考えて来年春に乗用グリーンモアを1台購入する予定です。アウト・インを乗用と手刈りで交互に刈る予定ですが、グリーンの状態が悪くなったと言われないように、乗用モアでグリーン刈りを行っているゴルフ場に話を聞くなどして、手刈り同様のクオリティになるようにしっかりと準備をしたいと思っています」